

研究力の強化に向けて

12月とは思えない暖かな日が続いていましたが、先週あたりから真冬らしい寒波が押し寄せ、北日本の日本海側を中心に降雪となりました。開場を待ちわびるスキー場やスキー客には福音をもたらしたのではないのでしょうか。

さて、10月24日に召集された第197回臨時国会は、出入国管理法等の改正法案の採択をめぐり与野党の攻防が激しさを増すなか、8日の未明の参議院本会議で同法案が可決・成立し、48日間の会期を予定通り終えました。

今国会では、議員提案による「科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法案」が成立しました。同法案は、従来の「研究開発システムの改革の推進等による研究開発能力の強化及び研究開発等の効率的推進等に関する法律」を改称したものです。

科学技術イノベーションは、我が国の継続的な経済成長と豊かな社会の実現には不可欠となっています。しかしながら、近年の我が国の基礎研究力は、研究論文数の伸びの停滞や被引用論文数の国別順位の低下等に象徴されるように、先進諸外国と比べた相対的な研究力の低下が懸念されています。また、大学院博士課程への進学者や海外留学生の減少など、意欲ある若手研究者の育成も課題となっています。

今回の法案では、産官学連携を組織的に推進するための大学・研究開発法人の体制整備や経営能力の強化を図るための人材を育成すること、産業技術総合研究所等3法人に限定されていた出資可能な研究開発法人を22法人に拡大すること、出資先として研究開発法人発ベンチャーに加え、ベンチャーキャピタルや成果活用を支援する法人を対象とすること、及び若手研究者が安定かつ自立して研究できる環境を整えること等が規定されています。これにより、イノベーションの活性化を通じて知識・人材・資金の好循環を構築することを目指しています。

医療分野においても、我が国の研究力を強化することにより、イノベーティブな研究成果を活用して製品開発に結びつけ、世界に先駆けて優れた医薬品・医療機器等の創出につながるものと思います。京都大学の本庶佑先生は、免疫を抑制するタンパク質を発見し、免疫チェックポイント阻害剤「オプジーボ」の開発につなげ、今年のノーベル生理学・医学賞を受賞されました。これからも、本庶先生に続くノーベル賞受賞者が誕生するのを期待したいと思います。

今年もあと僅かとなりました。日頃の皆様方からの暖かいご支援に心より感謝申し上げますとともに、新しい年が皆様方にとって良い年となりますようお祈り申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。